

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		高原クリニックデイサービス				公表日	2025年2月25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3名		個別療育を実施しているので個室を使用
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		3名		とくに何か特別な事情がある場合以外は適切であると認識している	1対1の対応で配置している	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		2名	1名	プレイルームのトイレに段差があるが、注意が促せるように声かけをしたり、支えたり、見守ったりしている	相談室はバリアフリー、プレイルームはトイレに段差があるが、現在のところ段差を取る予定は無い	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		2名	1名	清掃や除菌には、常に心配りをしている	成長に合わせて使用できる机や椅子があればという意見があるので今後検討していく	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		3名		個別療育を実施しているので、他者が入室することはなく完全個室の状態である	今後も現状維持を継続していく	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3名		支援計画作成時には担当者が参加して、児童発達支援管理責任者と話し合いを継続している	今後も現状維持を継続していく	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3名		年に一度、自己評価表アンケートを実施している	来年度も実施する	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3名		毎朝、出勤スタッフ全員での申し送り、支援計画作成時、カンファレンス時などに意見を出し合い話し合っている	今後も現状維持を継続していく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3名	現在のところ、設置していない	必要に応じて、今後の検討課題とする	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3名		法定に定められている研修は年間スケジュールを立てて計画的に実施している	今後も現状維持を継続していく	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2名	1名	支援プログラムは、すでにホームページにアップしている	必要があれば、検討し、変更、訂正があれば再度公表する	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3名		心理士、特別支援教育士が発達検査も行い、保護者にはフェイスシートを活用したり、毎回、気になるところをその都度話し合い、ニーズや課題について分析している	今後も現状維持を継続していく	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3名		担当スタッフも交えて検討しながら計画を作成している	今後も現状維持を継続していく	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3名		個別のファイルに保管し、どのスタッフも計画が共有できる状態にしている	今後も現状維持を継続していく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2名	1名	発達検査は主として、新版K式発達を行っているが、行動面の標準化された検査は実施していない	標準化されたツールの利用については、今後の検討課題とする	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3名		児の発達状況、保護者のニーズから検討して具体的な支援内容を設定している	新しい支援計画については、今後も児童発達支援管理責任者だけでなく、研修などにも積極的に参加して、スタッフ一同で理解を深め、より良い支援につなげていけるようにする	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3名		担当者で意見を出し合い、児や保護者の状況を鑑み、プログラムを考えている	今後も現状維持を継続していく	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3名		新しいプログラムの模索を怠ることなく、活動を工夫してプログラムを立案している	外部研修などの参加も視野に入れ、新しいプログラムも取り入れることを検討する	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3名		個別なので、集団活動は行っていないが、児の発達状況、親子の健康状態を考慮に入れ、臨機応変に対応している	今後も現状維持を継続していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2名	1名	毎朝、出勤スタッフ全員での朝の申し送りをしている	可能な限り、全スタッフで情報を共有し、連携して支援に取り組んでいく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3名		毎回、終了後は、担当スタッフが、個々の記録を記載している	可能な限り、全スタッフで情報を共有し、連携して支援に取り組んでいく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3名		当日、担当スタッフが必ず、個別の記録を取り保管している	日々の記録をしっかりと取ることの重要性を理解して、支援の検証、改善につなげる
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3名		定期的にモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている	今後も現状維持を継続していく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3名		ガイドラインに沿って、なおかつ個々のニーズに応じた支援を行っている	今後も現状維持を継続していく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3名		毎回の療育開始時に、利用児に当日の内容を明示し、納得の上、順番なども自身で決定するように促している	与えられた課題に取り組むだけでなく、出来る限り、児の希望に沿った内容についても検討する
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3名		他機関からの要請があれば連携できる体制を整えている	必要がある場合には、保護者の承諾を得て連携を取っていけるよう準備をする
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2名	1名	現在のところ、お問合せや連絡もなく、連携して支援を行う体制は取れていないのが現状である	保護者の承諾を得て、必要があればいつでも応じられる準備はできている
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	1名	2名	送迎を実施していないので、現在は、何も行っていない	必要なことが生じた場合には、連絡調整を行っていく
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		3名	多くの場合、児童発達支援からそのまま継続して支援を行っている	今後も現状維持を継続していく
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1名	2名	現在のところ、ご依頼がないので、実施していない	事業所などからご希望があれば、保護者のご了解を得たうえで、可能な限り限り対応させていただきます
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1名	2名	現在のところ、とくにこのような機会を設けていない	今後の検討課題のひとつとする
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3名	現在のところ、とくにこのような機会を設けていない	今後の検討課題のひとつとする
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2名	1名	とくに参加していない	今後の検討課題のひとつとする
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3名		個別療育なので、毎回、保護者とお話ができる	今後も現状維持を継続していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1名	2名	特別なプログラムは使用していないが、家族支援は行っている	研修の機会があれば出来る限り参加していきたい
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3名		ご利用開始時に、重要事項説明書に沿って、保護者に説明している	今後も現状維持を継続していく
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3名		保護者にフェイスシートの記載を依頼して、モニタリングを行い、保護者のご意見ご希望も取り入れた計画を作成している	今後も現状維持を継続していく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3名		支援計画が完成した時点で、時間を設け、説明の後、ご納得いただいたうえでサインをお願いしている	今後も現状維持を継続していく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3名		個別療育なので、毎回、こどもについて、また家族について情報交換ができる状態である	今後も現状維持を継続していく

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		3名	個別療育であるため、父母会、保護者会などは組織化されていない	今後の検討課題とする
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3名		親子通園なので、毎回、こどもについて、また家族について情報交換ができ、その場ですぐに対応している	今後も現状維持を継続していく
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		3名	口頭や掲示のみで情報を伝達しているのが現状である	今後の検討課題とする
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3名		スタッフは誓約書を理事長に提出し、パソコンのウイルス対策や紙の媒体での資料の保管にも十分に配慮している	今後も現状維持を継続していく
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3名		スタッフ全員、十分に配慮している	親子通園の利点を生かし、保護者としっかり寄り添っていくという理念のもと支援を続けている
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3名	地域との交流は現状では行っていない	今後の検討課題とする
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2名	1名	各マニュアルは作成済み、消防署のご指導の下、訓練も行っている	今後も年間計画のなかにも取り入れて、実施していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3名		BCP策定済み。定められている訓練は毎年計画的に実施している	今後も年間計画のなかにも取り入れて、実施していく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3名		カンファレンス時に院長より個々のケースについて、説明、報告あり	今後も病状に変化があった場合など、院長から、必要に応じしっかりと指導をしてもらう
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2名	1名	食事、おやつ提供なし	指示書は必要ないのが現状である
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3名		安全計画作成済み、事故の防止や安全管理に配慮している	安心して支援が行えるよう、今後も、安全管理については、スタッフ全員で十分に配慮していく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2名	1名	基本的に親子通園を実施している	今後も現状維持を継続していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3名		現在までに大きな事故は起きていないが、事故防止、また起きた時の対応についてはマニュアルを作成し、スタッフ全員で共有している	引き続き、事故のないように十分留意をしていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3名		定められている研修の機会は確保している	今後も現状維持を継続していく
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	1名	2名	全員については、支援計画に記載できていないのが現状である	次回の支援計画見直し時からは、全員に記載していく	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 高原クリニックデイサービス

公表日 2025 年 2 月 25 日

利用児童数 18名

回収数 16名

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16名 (100%)					個別療育実践している中で、個室を主に利用しているが、粗大運動を取り入れる場合にはプレイルームも利用している
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16名 (100%)					1対1の対応で行っている
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14名 (88%)	1名 (6%)		1名 (6%)		プレイルーム、相談室ともにほぼフラットで、水回りなども、子ども用に配慮した構造をとっている
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16名 (100%)					プレイルームは、二面採光で明るく、粗大運動も可能なスペースを確保し、個別は、相談室で落ち着いて取り組める環境を備えている
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16名 (100%)					小児科医師、保育士、心理士、特別支援教育士、言語聴覚士の連携の下、個々の現状に応じた支援を提供していきます
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16名 (100%)					基本的な理念や支援方針を踏まえて、個々のニーズも取り入れプログラム立案を今後も継続していきます
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16名 (100%)					今後もさらに、子どもと保護者の課題やニーズの把握に努め、計画の作成を行っていく
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16名 (100%)					今後も現状維持を継続しつつ、支援内容の変化については、具体的かつ明確に記載していくことに努める
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16名 (100%)					現状維持を基本としつつ、利用者の変化に迅速にかつ柔軟に対応していく
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15名 (94%)	1名 (6%)				現状維持を継続しつつ、新しい取り組みも導入していく
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	5名 (31%)	1名 (6%)	9名 (57%)	1名 (6%)	個別なので機会は無い	実施していないのが現状であるが、今後の検討課題とする
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16名 (100%)					今後も現状維持を継続していく
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16名 (100%)					今後も現状維持を継続していく
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11名 (69%)	1名 (6%)		4名 (25%)		正式なプログラムに対応したペアレントトレーニングとしては、実施していないが、母子通園の利点を活かし、親子や兄弟の関わりについても指導内容に組み入れ引き続き支援を継続する
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16名 (100%)					今後も保護者と共通理解ができるようにしっかりと対話を重視していく
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15名 (94%)	1名 (6%)				保護者と毎回お話ができるし、何か問題が生じた場合もその都度、早期に対応ができる
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16名 (100%)					回答結果に驚ることなく、今後も現状維持を継続して支援していく
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。		3名 (19%)	6名 (38%)	4名 (25%)	無回答 3名	とくに行っていないのが現状である。今後の検討課題のひとつとする
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14名 (88%)		1名 (6%)	1名 (6%)		今後も、利用児や保護者がお話をされやすい環境設定に努める

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16名 (100%)						今後も現状維持を継続していく
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2名 (13%)	2名 (13%)	2名 (13%)	7名 (44%)	無回答 3名		親子通園なので、直接、口頭で伝えたり、掲示したりしている
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14名 (88%)			2名 (13%)			個人情報に取扱いに関しては、パソコンのウイルス対策や、紙の媒体でのデータの管理も慎重に各自が責任をもって対応している
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10名 (63%)	1名 (6%)	2名 (13%)	3名 (19%)			各マニュアルは作成済み、今後、保護者にも周知していく機会を設けていく
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4名 (25%)	2名 (13%)	1名 (6%)	9名 (56%)			消防署とご相談の上、定期的に訓練を実施している
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11名 (69%)			5名 (31%)			安全マニュアルに沿って、今後も事故の予防に努め、保護者への周知も徹底していく
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13名 (81%)			3名 (19%)			現在まで大きな事故がなく経過している。今後も十分に配慮する
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16名 (100%)						子ども達や保護者の期待を裏切ることのないように気を引き締めて療育に動んでいきます
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15名 (94%)			1名 (6%)			回答結果に驕ることなく、療育内容のさらなる充実に努めます
	29	事業所の支援に満足していますか。	16名 (100%)						子ども達の多様な価値観を尊重しながら個々の発達に寄り添ったきめ細かな支援を心がけます

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	高原クリニックデイサービス		
○保護者評価実施期間	2024年12月2日		～ 2024年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2025年1月20日		～ 2025年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月14日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を実施している	個々発達状況やニーズに沿った対応や支援を行っている	診断名や個々の発達状況も様々であるため、就学後は個別での対応がベストであると考えている。今後も個別療育を継続していく
2	多職種(小児科医師、保育士、心理士、言語聴覚士、特別支援教育士)の連携をとり支援に取り組んでいる	発達検査を実施し、結果もすぐに支援に反映することができる。また、言語聴覚士も必要に応じて療育に参加する	それぞれの職種の専門知識を活かし、勉強会や研修を行い、スタッフ全員が自己研鑽を重ねられる場の設営を今後も引き続き計画していく
3	保護者にしっかりと寄り添うことができる	毎回、同伴されるのが基本であるため、保護者の不安や心配を直接お聞きすることが可能であり、早期解決にも繋がる。毎回、出来るだけ、お時間を取らせていただようになっている	親と子ども達が「共に育ち合う」という理念のもとで、保護者も療育の場に参加することにより、より良い療育環境を提供できるように取り組んでいる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団の中での児の様子が十分に把握できない	個別療育であるため	可能な限り、利用児や保護者から、学校や集団での様子を聴き取り、問題点の把握、解決に努めている
2	児1名に対して、スタッフ1名なので、おひとりの児の回数を多く取らせていただくことができない	スタッフの確保が困難である	今後、個別指導を行えるスタッフの増員について検討していく必要がある
3	基本おひとり45分ずつの療育である	1人当たりの時間の確保が難しい	今後、個別指導を行えるスタッフの増員について検討していく必要がある